

議案第66号

世田谷区登録天然記念物への登録及び世田谷区指定天然記念物への指定の諮問(3件)

上記の議案を提出する。

令和5年12月12日

(提出者)
世田谷区教育委員会
教育長 渡部 理枝

(提案説明)

区文化財保護条例第54条に基づき、樹木3件の世田谷区登録天然記念物への登録及び世田谷区指定天然記念物への指定について文化財保護審議会に諮問するため、本案を提出する。

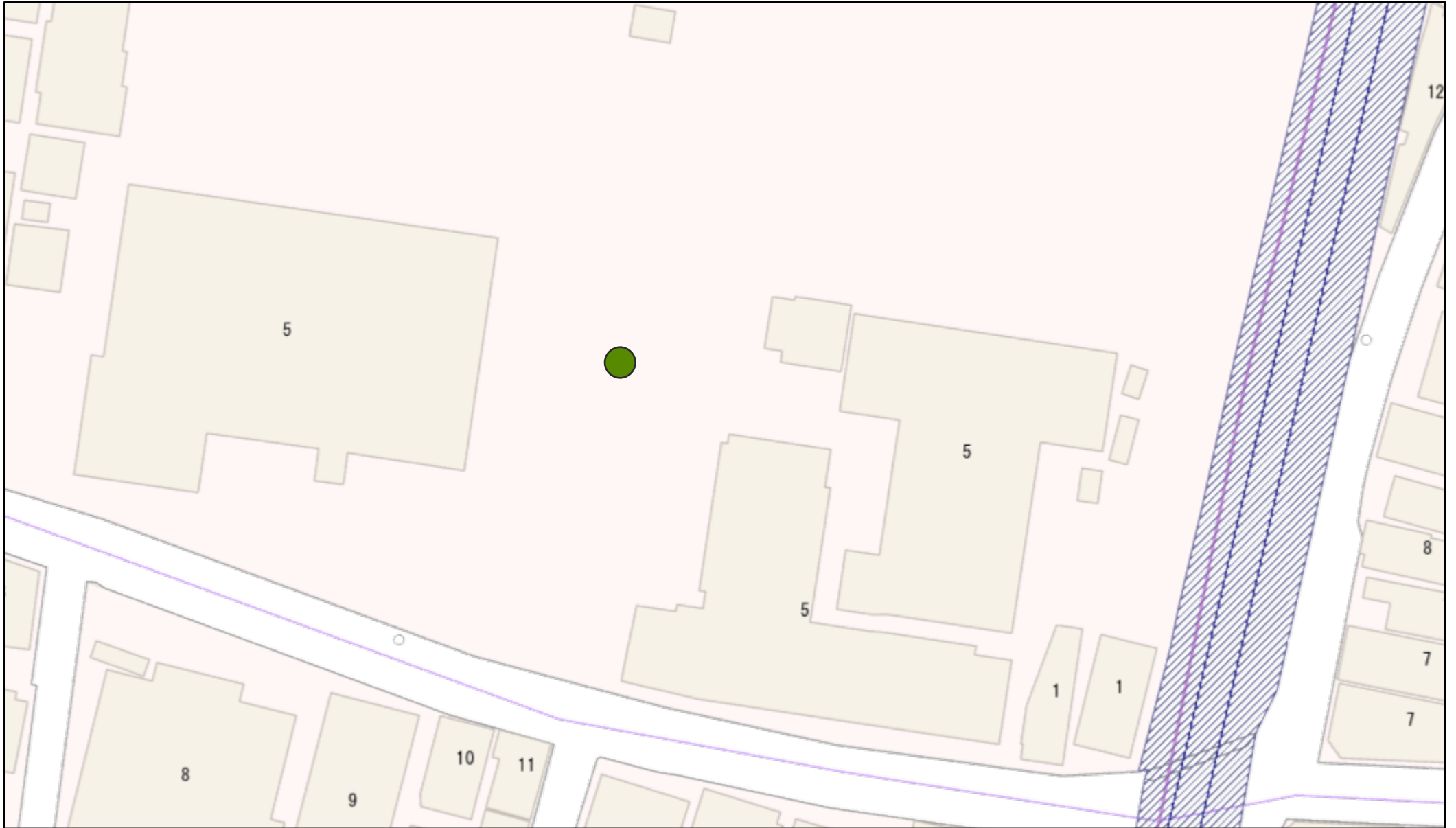
諮問候補の概要

1	名称及び員数	乗泉寺世田谷別院のクスノキ 1本
2	種別	世田谷区登録天然記念物及び世田谷区指定天然記念物（植物）
3	所在地	世田谷区宮坂二丁目1番5号 乗泉寺世田谷別院
4	所有者	渋谷区鶯谷町10番地15号 宗教法人乗泉寺 代表役員 永江正夫
5	概要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標 - 38710.36 Y座標 - 17040.75</p> <p>樹高 25.0メートル 幹周 6.15メートル 根元周囲 8.8メートル</p>
	(2) 沿革	<p>乗泉寺は法華系仏教の一派・本門仏立宗^{ほんもんぶつりゅうしゅう}の寺院で、京都妙蓮寺の末寺として江戸・西久保に創建され、開基の年は元和年間（1615～1624）といわれる。元は麻布桜田に境内を構えたが、戦後間もなく渋谷に移転した。世田谷別院は、三軒茶屋方面布教の拠点として昭和4年（1929）11月3日に建立された。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>クスノキは（学名：<i>Cinnamomum Camphora</i>）クスノキ科、クスノキ属の常緑広葉高木である。</p> <p>アスファルトで舗装された広い駐車場と北側の墓地との間で、小さな円形状にブロックで囲まれた狭い場所から急に幹を出し、空に向かい大枝を広げている。地上部では建物やイチョウと一部で樹冠が近接する程の場所があるが成育を妨げるほどのものではなく、広い空間が保たれている。また日照条件も良好である。</p> <p>太い幹は高さ2.5メートル程で東西方向に分岐し、それぞれの幹から各方向に太い枝を伸ばして一つのまとまった樹冠を作っている。かつて大枝が剪定されたようだが切り口はすべて巻き込まれ、幹や大枝の肥大成長が旺盛であることを示している。また、近年若い枝抜きおよび枝先剪定を行ったとのことで枝葉密度がやや小さくなり、樹冠内には大枝からの萌芽枝が目立つ。枝の伸長量および葉色は正常だが、葉がやや小さい。根元での太根の成長は良好で、三方向に張り出す太根の肥大成長が明瞭である。</p>

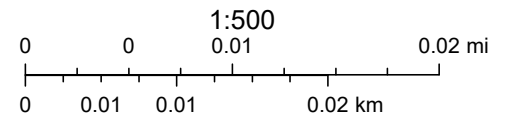
写真



乗泉寺世田谷別院のクスノキ 全景



2023/11/9



指定 乗泉寺世田谷別院のクスノキ 1本

諮問候補の概要

1	名称及び員数	慶元寺のケヤキ 5本					
2	種 別	世田谷区登録天然記念物および世田谷区指定天然記念物（植物）					
3	所 在 地	世田谷区喜多見四丁目17番1号 慶元寺					
4	所 有 者	世田谷区喜多見四丁目17番1号 宗教法人慶元寺 代表役員 山田順司					
5	概 要						
	(1) 内容	位置	X座標	Y座標	樹高	幹周	根元周囲
		1	-41279.95	-21577.56	22m	2.55m	3.0m
		2	-41287.36	-21571.79	22m	2.7m	3.3m
		3	-41293.80	-21584.38	25m	4.0m	4.45m
		4	-41315.70	-21578.65	27m	4.35m	5.6m
		5	-41320.57	-21582.05	23m	3.1m	4.2m
	(2) 沿革	<p>慶元寺は喜多見の地を領有した江戸氏(喜多見氏)の菩提寺で、天文9年(1540)19世真蓮社空誉上人を中興開山とし天台宗から浄土宗に改宗した。江戸氏は、戦国時代北条氏に仕えていたが、徳川家康が関東に入国すると、増上寺の観智国師の推挙により御家人となった。のちに2万石の大名となったが、断絶となり、喜多見藩も領地召し上げられ藩は消滅した。慶元寺には江戸氏及び喜多見氏の墓所がある。</p> <p>同寺社叢は、隣接する喜多見氷川神社とともに『江戸名所図会』喜多見に所収され世田谷区内を代表する景観である。喜多見四丁目16番の農園、慶元寺の三重塔、ケヤキ並木は世田谷の農村風景をよくとどめている。</p>					
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>ケヤキは(学名: <i>Zelkova serrata</i>)ニレ科、ケヤキ属の落葉広葉高木である。</p> <p>広い敷地内で本堂の東で墓地との間を仕切る形で、南北方向に走る歩道(散策路)に沿ってケヤキの大木やシラカシ、シロダモが屋敷林のように残る。ケヤキは他樹に比して樹高は秀でて高く、林の樹冠トップのスカイラインを作っている。</p> <p>慶元寺のケヤキは、境内に複数本確認できるが、特に境内景観を特徴づけている、列植された5本の大樹を対象とする。</p>					

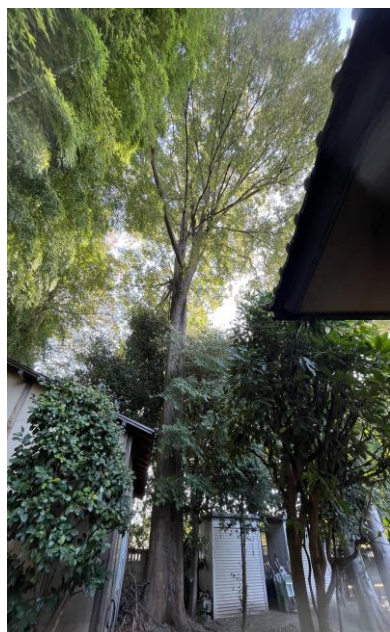
写真



慶元寺のケヤキ 1



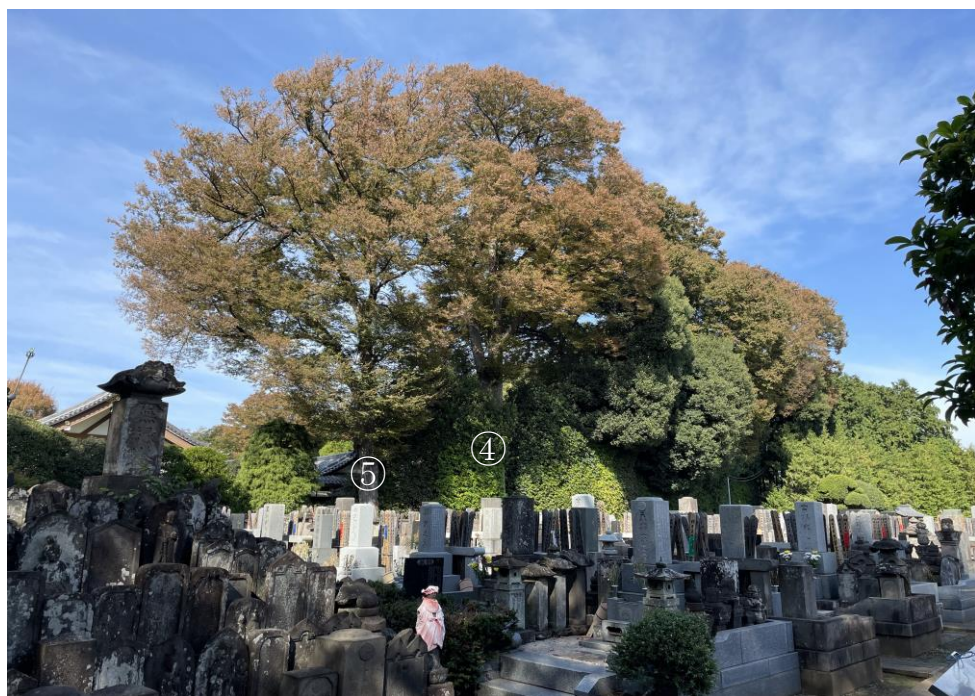
慶元寺のケヤキ 2



慶元寺のケヤキ 3

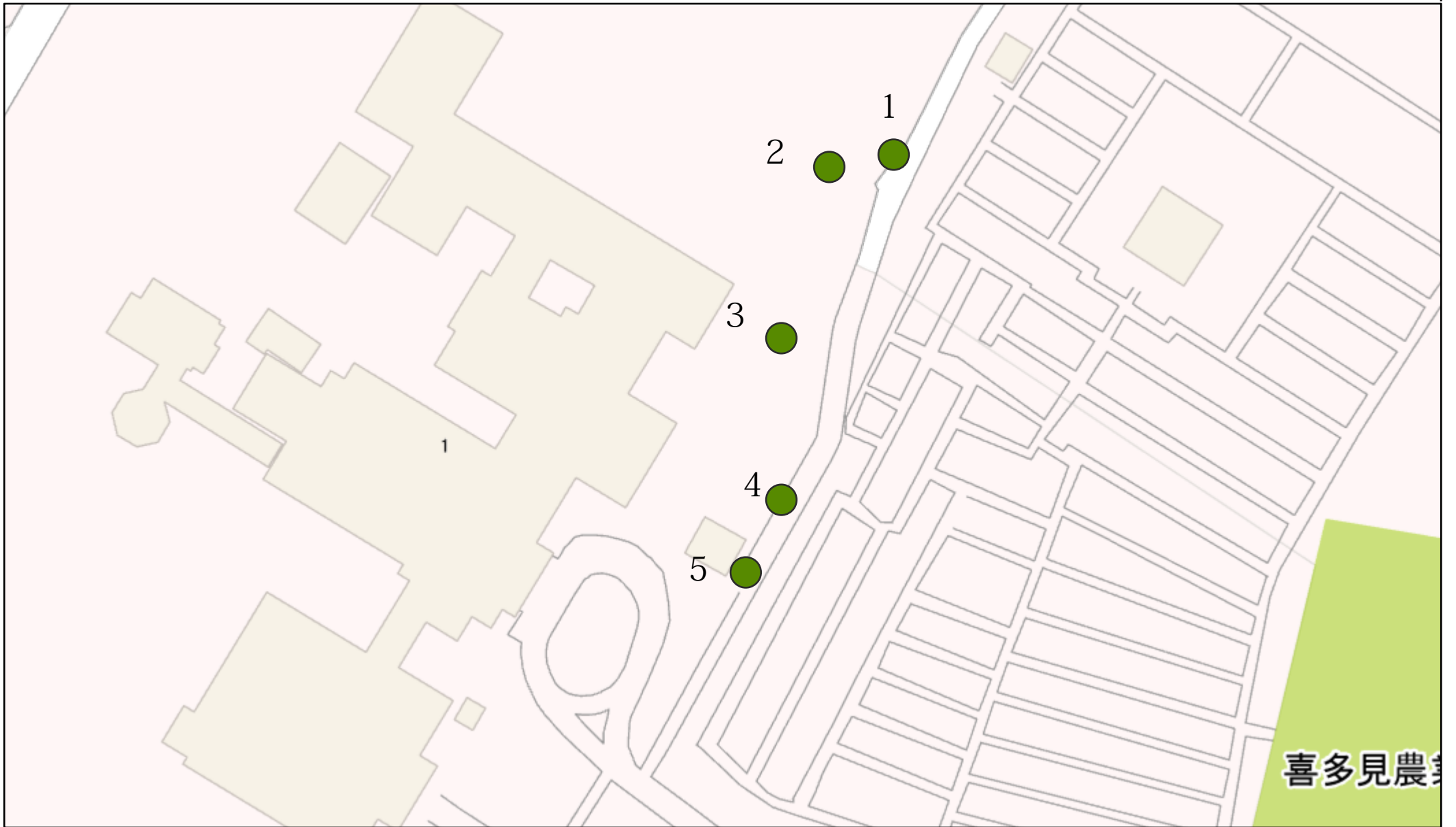


慶元寺のケヤキ 全景

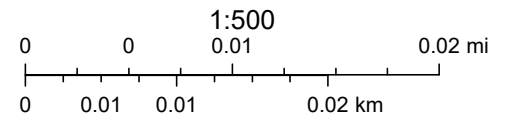


慶元寺のケヤキ 4 及び 5

諮問候補



2023/11/9



指定 慶元寺のケヤキ 5本

諮問候補の概要

1	名称及び員数	玉川神社のクスノキ 1本
2	種 別	世田谷区登録天然記念物および世田谷区指定天然記念物（植物）
3	所 在 地	世田谷区等々力三丁目27番7号 玉川神社
4	所 有 者	宗教法人玉川神社 代表役員 高橋秀史
5	概 要	
	(1) 内容	<p>樹木の位置 X座標－43179.65 Y座標－16486.7724</p> <p>樹 高 18.0メートル 幹 周 6.54メートル 根元周囲 10.53メートル</p>
	(2) 沿革	<p>当社はかつて熊野神社と称し、文亀年間（1501～04）に世田谷城主吉良頼康が勧請したと伝える等々力村の鎮守社である。明治41年（1908）、社号を現在の玉川神社と改めた。</p> <p>大正7年（1918）火災に遭い全焼したが、昭和15年（1940）に新築竣工した。</p>
	(3) 本樹の特徴、生育立地及び現状	<p>クスノキは(学名: <i>Cinnamomum camphora</i>)クスノキ科、クスノキ属の常緑広葉高木である。</p> <p>境内林の南東端にあり、樹冠は隣接するスダジイの上方で四方に広がる。根元周囲は土壌面が広がるが、やや踏圧が加わり、細根が露出している部分がある。</p> <p>根元部分（地上10～20センチメートル）には、本来の根元と太根が見られる。その上から2メートル程の高さまで幹が肥大化し、凸凹のある徳利形をした奇形樹である。また、高さ3～4メートルで主幹は大枝に分岐しそれぞれ上方に伸び、枝葉は周囲のスダジイの樹冠の上で広がる。枝葉密度はやや小さく、先枝端の葉は小形化しているが、枝の伸長量は正常である。</p>

写真



玉川神社のクスノキ 全景



玉川神社のクスノキ 根元部分



2023/11/9

指定 玉川神社のクスノキ 1本